

研究テーマ

内服自己管理自立の関連要因の探索
～MMSEの各項目に着目して～

病院名

医療法人社団健育会 ねりま健育会病院

演者

やすだもえ
○安田萌(看護師) 門馬真子(看護師) 鈴木夏姫(看護師)
佐藤裕太(看護師)

概要

【緒言】

薬物療法中の患者にとって、服薬コンプライアンスが病気の進行、悪化、再発防止に極めて重要な意義がある。先行研究では、服薬行為は動作性行為が多々含まれるため、動作性検査項目を含むMMSEを内服自己管理能力の評価には適切であるとし、その合計点数を入院患者の内服自己管理能力の判断に用いているが、判定基準値の違いや、基準を逸脱するケースが存在している。MMSE各項目について自己内服管理の自立に関連する要因を検討することで、内服自己管理を導入する上でのリスクや注意点が明らかになり、内服自己管理導入の際に検討するポイントが具体化でき、段階的なアプローチのもとで内服自己管理が可能となる患者の幅が広がる可能性がある。

【目的】

入院患者の退院後の自己内服管理が段階的なアプローチにより可能になるかを判断するための判断根拠となる知見を得るために、自己内服管理の退院時の自立の状況と、MMSEの各項目と総合得点との関連を探索する。

【方法】

研究場所: N病院回復期リハビリテーション病棟

対象: 期間中に入院していた全患者のうち、MMSE測定実施していた患者205名

期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日

調査方法: カルテから以下の情報を抽出

性別、年齢、疾患、MMSE、内服自己管理の状況、家族のサポートの有無、自己管理経験の有無、服薬回数、認知症の有無

分析方法: マン・ホイットニーのU検定、 χ^2 乗検定

倫理的配慮: N病院倫理委員会へ研究内容を届けて承認を得た。

【結果】

χ^2 乗検定で、認知症の有無、内服経験の有無、MMSE22点以下と23点以上において有意差を認めた。

マンホイットニーのU検定で、MMSEの11項目中、時間の見当識、場所の見当識、計算、物品名の想起、文章の反復、3段階の命令実行、自発的文書作成、図形模写において有意差を認めた。

家族のサポートの有無においては、サポートのある患者は全体と有意差に変化はなかったが、サポートがない患者は時間の見当識、場所の見当識、計算、自発的文書作成、図形模写のみにおいて有意差を認めた。

【考察】

先行研究ではMMSE23点以下であれば服薬自己管理は困難であるとし、カットオフ値を23点と報告している。

MMSEの11項目において、時間の見当識、場所の見当識、計算、物品名の想起、文章の反復、3段階の命令実行、自発的文書作成、図形模写において有意差を認めた。今後は、MMSE合計得点だけでなく、有意差を認めたMMSE各項目に着目して評価していくことが内服自己管理獲得にむけた介入において重要ではないかと考えられる。

【結論】

今後はMMSEの合計得点だけでなく、各項目に着目して評価していくことが重要であるという示唆が得られた。